

第 64 回 水戸第一高等学校 学苑祭

「サイコウの舞台(ステージ)へーAdvance!」

校長 早川 源一

この度の東日本大震災で被災された方々に対し心よりお見舞い申し上げますとともに、迅速なる復興をお祈り申し上げます。また、本校に対して寄せられました物心両面にわたるご支援に対しましても厚く御礼申し上げます。

さて、「歩く会」と並ぶ本校二大行事の一つ「学苑祭」が、第 64 回として開催されます。昨年度は、この大震災の影響で体育館が使用できないことに加え、大きな余震も予想されていたため、一般公開はせず、保護者のみへの公開ということで開催いたしました。

今年度は、体育館がやっと学苑祭に間に合いましたが体育館前の法面の工事が残るなど、依然として完全復旧とは行かない状況ですが、本校生の熱い思いをぜひ来場者にも感じていただきたいということで、一般公開することといたしました。これまで会場がどの程度復旧できるのかと不安もある中、生徒実行委員会は熱意溢れる議論と懸命な準備を重ね、本日の開催を迎えることができました。この実行委員会のリーダーシップと各参加団体の協力に敬意を表します。

さて、今回の学苑祭のテーマは「サイコウの舞台(ステージ)へーAdvance!」です。

この「サイコウ」には、色々な意味が込められております。何といたっても被災地の再興への祈りが込められるとともに、生徒たちにとって最高のものを作り上げ、最高の舞台でアピールしたいということだと思います。本校生徒たちは、昨年の厳しい条件の中を見事に前進してきました。厳しさを克服してきた生徒たちには、次なる厳しさに立ち向かい、情熱をもって高い理想を追求する力が備わってきていると思います。安全には十分配慮しながら、今まで繋いできたものをしっかり受け継ぎ、次の代にきちんと繋ぎ、前進し続ける。今回の学苑祭はそのような学苑祭になればと考えております。

本日ご来場いただきました皆様に感謝いたしますとともに、生徒たちの「学苑祭」に対する熱い思いを感じ取っていただきまして、激励していただければ有り難く存じます。

人生に変化はつきものである。だが、その変化とは「変革」でなくてはならない――

状況的にみて、回り道を余儀なくされる局面もあるだろう。昨年、第63回学苑祭、我々は自分たちの力ではどうにもならない壁にぶつかった。しかし、ただやみくもに壁に猛進するのではなく、たくさんの方の協力を得て、保護者のみの公開という新しい道でその壁を乗り越えた。

そして第64回学苑祭、水戸一高生は新たな「変化」を求められている。その「変化」こそが今年の仮テーマでもある「躍進」である。今までの伝統も守る一方、それらにとらわれることなく、さらに上へ、さらに良いものへ――それこそが我々に求められている「変化」であり、それを実現させてこそ、水戸一高生であるだろう。

さあ、今こそ水戸一高が一つになる時だ。水戸一高生の、水戸一高生たるゆえんをこの二日間に出し切ろうではないか。そして各々がさらなる高みへと躍進してほしい。健闘を祈る。

ご来校の皆様、本日はお越しいただき誠にありがとうございます。今年、地域の皆様をはじめたくさんの方のご協力のおかげで、無事例年通りの学苑祭を開催することができました。さて、そもそも水戸一高生にとって、学苑祭とは何なのでしょう。それは「表現の場」ではないのでしょうか。学苑祭の「祭」という字には「示」という字が入っています。この事からも分かる通り、学苑祭とは今までの私たちをはぐくんでくださった人たちへの感謝を、自分たちの成長を、これからの未来への展望を示す場であると考えています。そんな私たちの二年越しの思いを、この学苑祭を通して受け取っていただけたら幸いです。

最後になりましたが、顧問の先生方をはじめとしてご協力いただいた生徒のみなさん、今日までともに学苑祭の運営にあたった仲間、そしてお世話になったすべての方々にこの場を借りて心より感謝申し上げたいと思います。